

令和6年度市政功労者表彰式



本庄市市政功労者表彰式

受賞者（敬称略・受賞者名簿順）

自治功労

勝山 勉
荒井 一夫
高橋 茂雄
保岡 哲也
渡部 良一

保健功労

木田 芳宏
久保 淳

環境衛生功労

渡部 良一
赤城乳業 株式会社

消防防災功労

金子 真吾
山口 航
山崎 信吾
吉野 郁夫

社会福祉功労

井上 健治
井上 美恵子
大山 美佐保
小池 美喜子
佐々木 眞紀
田村 礼子
中林 久
橋本 紀江
福島 志津江
斉藤 一英
吉川 弘
野口 三恵子
進藤 清司
松浦 常雄

教育文化功労

岡崎 吉宏
立花 勲

産業功労

田島 敏包

青少年健全育成功労

有村 義広
岩田 利幸
小林 容子
田邊 晶子

体育功労

井上 孝之
栗田 啓一
戸森 茂
倉林 直紀

市の公益功労

三宅 健吉
梅村 孝雄

市では、市民の生活・文化の向上や社会福祉の増進など、市政に対して特に功労があり、他の模範となる人を表彰しています。

11月23日に市役所で、市政の発展に貢献された皆さんに市長が表彰状を手渡しました。

※ご本人の希望により2名のお名前の公表を控えています。

年頭の ごあいさつ

本庄市長 吉田信解



新年明けましておめでとうございます。令和7年の輝かしい新春をご健勝にてお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年を振り返りますと、まずは、元日に発生した能登半島地震、さらには9月に同地を直撃した豪雨により、多くの方がたが被害に見舞われました。この自然災害に対して、本市で災害義援金を募りましたところ、実に多くのご厚意をお寄せいただきました。皆さまからのご支援に對しまして改めて御礼申し上げます。被災地の一日も早い復興を願います。

令和6年、市政においては、学校施設の統合を含む公共施設の再配置、上下水道の料金改定、高齢者福祉事業の見直しなど、いずれも先送りできない諸課題に、しっかりと取り組んでまいりました。

また、本庄駅北口周辺の地籍調査、道の駅構想、新たな産業用地の適地選定など、未来に向けたまちづくりも着実に進めてまいります。

旧年中もさまざまなトピックスがありました。まだ寒さの残る2月、初開催の「ほんじょうプレミアムストロベリーマーケット」では、市内外から大勢の方にお越しいただき、おいしい本庄産のいちご「あまりん」をPRすることができました。本年も本市の誇る名産品として、さらなる認知度の向上に努めてまいります。

「どこにでも行けるけど、ここにいたい。本庄」。これは、昨年7月に投票で決定した本庄市のブランドメッセージです。市への思いやビジョンを端的に表現したこのフレーズを、まちの魅力発信のため、皆さまも大いに活用いただきましょう、お願いいたします。

8月には、本庄市、深谷市、伊勢崎市、3市それぞれの事業等の周年を祝して、3市連携花火大会を開催いたしました。直前まで天候が心配されましたが、幸運に恵まれ、洗練された豪華絢爛な花火が夜空に広がった際には大きな歓声が上がると、心に残るものとなったと思います。

コロナ禍以前のように催行された本庄、児玉の夏・秋祭りのほか、各地域の神社祭礼、獅子舞、神楽などの伝統行事にも多く参加し、平穏無事な生活が戻ったことを改めて実感しました。

また、まちのにぎわいの点では、各所で日常的に開催されているマーケットに加え、児玉地域で久しぶりに開催された七夕祭りに明るい兆しを感じました。

さて、令和7年、団塊の世代が75歳以上の高齢者となる、いわゆる「2025年問題」の年となります。厳しいかじ取りが求められる時代でございますが、引き続き、持続可能な高齢者福祉の実現に努めてまいります。

近年、本市においては人口の社会増減の減少は食い止めているものの、自然増減の減少幅の方が大きく、全体としては人口減少が続いています。

こうした状況を踏まえ、これまで以上に人口の自然増減に焦点を当てた施策が必要と考えています。人口減少、少子化、いずれも大きな課題ですが、基礎自治体の立場で何をなすべきか真剣に考え、子ども・子育て施策を展開してまいります。

新たな年、明るい話題としましては、来る2月に台湾の台南市との友好交流協定を締結し、本市の歴史に新たな一ページが刻まれます。ここに至るまでご協力を賜りました皆さまに、厚く御礼申し上げます。

また、令和7年度は、市制施行20周年の節目の年を迎えます。これまで進めてきた各種施策を一層深化させながら、絶え間なく変化する市民ニーズに細やかに対応できるよう、市政をさらに前へと進めてまいります。

どうぞ皆さまの、市政に対する変わらぬお力添えをお願い申し上げます。

結びに、皆さまのご健康とご多幸をご祈念申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。